

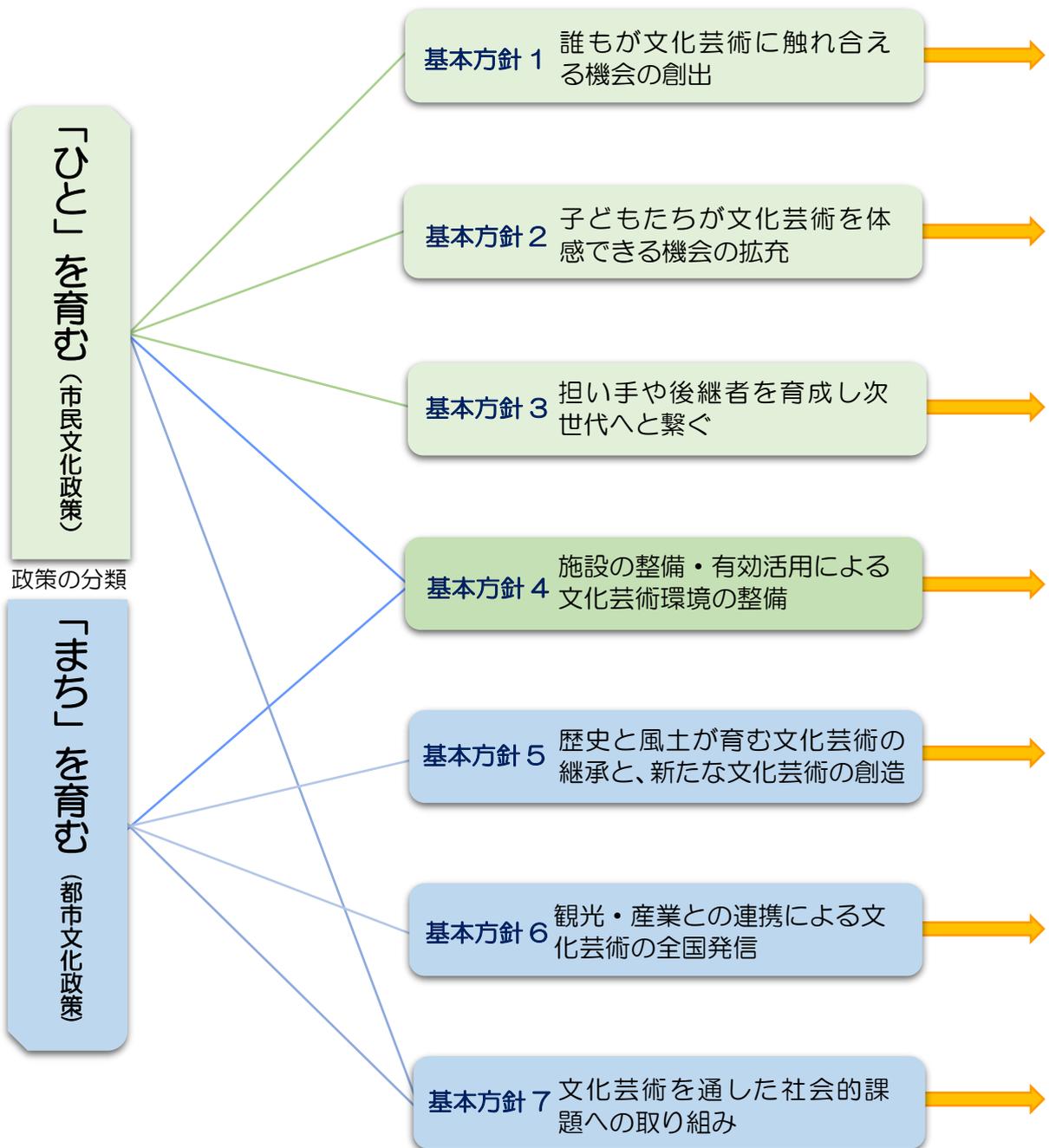
【資料3】

美術博物館基本計画 検討経過

2. プランの体系① 文化政策と基本方針

》》》基本方針に基づいた施策の推進

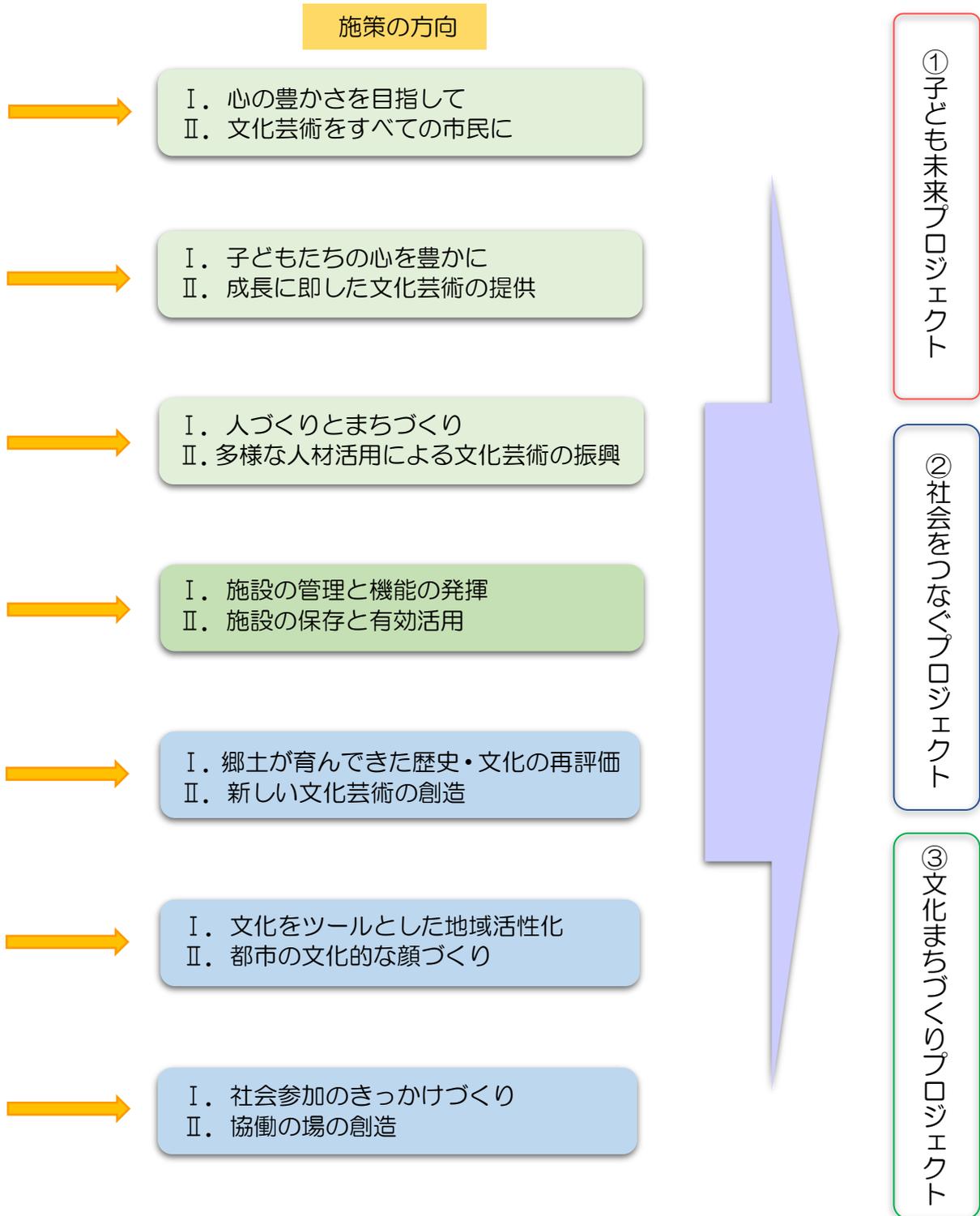
基本目標の実現に向けて、プランではビジョンが掲げる7項目の基本方針に基づいて施策を推進することとします。文化政策（市民文化政策と都市文化政策）と基本方針の関連は以下のように示されます。



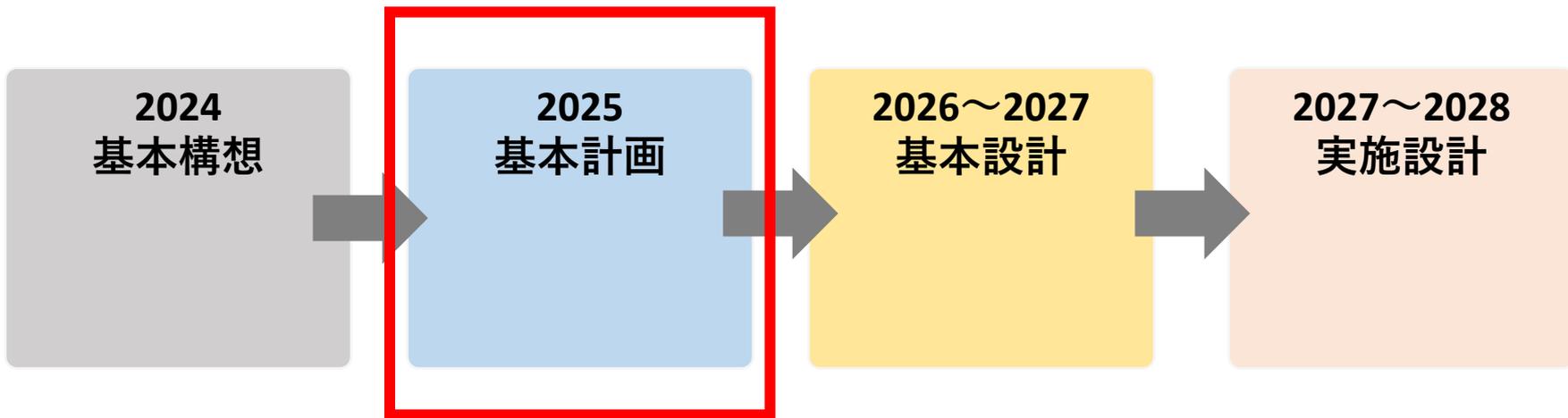
3. プランの体系② 施策の方向とプロジェクトによる推進

》》》基本方針ごとに施策の方向を示します

7つの基本方針には、それぞれ施策の方向を2項目ずつ定めて事業の推進を図ります。さらに、目的別に3つのプロジェクトを設定し、総合的な取り組みが図れるようにします。



スケジュール



第2章 基本的な考え方

伊賀市美術博物館 – 芭蕉翁のふるさと 伊賀の歴史文化 ひろがる未来への拠点

施設のめざす姿



芭蕉翁のふるさと

芭蕉翁は「不易流行」という深遠な思想を築き上げました。その根底には、伊賀の自然や風土、そして豊かな文化があります。芭蕉が見つめた世界を感じ取りながら、伊賀のさまざまな魅力を新たに発見していただきたいと思えます。



伊賀の歴史文化

伊賀には、古代から現代に至るまでの歴史が重層的に息づいています。その歴史や文化の「ホンモノ」を体感できる場をつくっていきます。



ひろがる未来への拠点

子どもたちには、豊かな感性を育み、伊賀の歴史や文化を大切にする心を持ってほしいと考えています。訪れた方が感動や共感を得て、新たな文化の担い手として未来を描けるそのような場を目指します。

美術博物館の基本理念（4つの役割）



創造の拠点

[育む]

ホンモノに触れる展示や体験を通じて、市民や子ども豊かな心を育てます。



情報発信の拠点

[伝える]

伊賀や芭蕉の魅力を国内外へ発信し、関連施設とのネットワークを広げます。



交流の拠点

[集う]

ワークショップや市民参加型の活動で交流を生み、憩いの場を提供します。



保存継承の拠点

[守る]

資料を適切に保存管理し、研究を深め、未来へ引き継ぎます。

基本的な機能 4つの柱（役割を実現するため）

記憶をつなぐ場

伊賀の歴史文化を守り継ぎ、地域への誇りや愛着を育む場所です。

未来を育む場所

ホンモノに触れる感動やワークショップを通じて、新しい発想と創造力を育みます。

伊賀を伝える場所

伊賀の魅力を伝えるゲートウェイとなり、文化施設との連携で回遊性を高めます。

集いと憩いの場所

多様な価値観が交差し、誰もが気軽に訪れて過ごせる開かれた第三の場所です。

芭蕉翁のふるさと 秘蔵の国 伊賀 未来を創るミュージアム



芭蕉翁と伊賀の歴史文化を知ってもらう



伝統を守りながら、新しい価値を創造する



市民とともに成長し、未来を支える拠点となる